



連携事例26

R5.8 更新

手賀沼スクールヤード

～手賀沼を校外の学び場に～



農作業体験プログラム（稲刈り体験）

■協働パートナーの種別

NPO	企業	行政	教育	地縁
-----	----	----	----	----

■事業運営団体

・手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会

■協働パートナー

合同会社 EDGE HAUS・柏市農政課・鹿倉農園

手賀沼漁業協同組合ほか

計 12 団体

■事業費

500 万円

■資金調達手段

利用料等受益者負担・

補助事業等による開発資金獲得（観光庁）

事業概要

近隣の小中学校向けの自然体験プログラム「手賀沼スクールヤード」では、手賀沼の環境を活かした4つのプログラム（農作業体験、水辺・水上アクティビティ、環境学習プログラム、歴史・文化体験）を提供している。手賀沼で活動する市民団体・農家・漁協・企業が連携して開発し、各団体の強みや専門性を活かしたプログラムを運営することで、子どもたちの校外の学び場の創出に取り組んでいる。また、全プログラム共通のSDGsをテーマにした振り返り学習も行い、身近な環境に目を向け、また手賀沼を訪れ、様々な活動に参加してもらう機会となることを目指している。

協働までの経緯

平成28年度より、手賀沼周辺の関係人口増加を目標に、自然体験プログラムの開発・運営に取り組んでいる。核となる農作業体験においては、平日稼働率の向上が農産物の生産性や事業リスクの低減につながると考え、平日の学校向けプログラムに着手した。並行して進めていた「水辺の拠点」づくりでは、様々な市民団体がこども向けのプログラムを開発しており、それらの団体にも声をかけて、「手賀沼スクールヤード」をスタートさせた。

主な事業内容(年間スケジュール等)

- ① 12～3月：学校への提案・募集（1学期分）、学校・受入先との調整、安全講習会の開催
- ② 4～8月：自然体験プログラムの受け入れ・実施
- ③ 6～9月：学校への提案・募集（2学期分）、学校・受入先との調整、SDGs勉強会の開催
- ④ 9～12月：自然体験プログラムの受け入れ・実施

● 主な協働パートナーとの役割分担

【企業】 合同会社 EDGE HAUS : 全体企画・運営
特定非営利活動法人 uban dasign pariners balloon
: 企画支援

【市民団体】

てがめまパドルクラブ、手賀沼まんだら、
我孫子野鳥を守る会、柏観光プロダクション
NPO 法人住み良いまちづくり研究所 : プログラム
運営・指導

【行政】 柏市農政課 : 地域への声かけ

● 協働事業によって生まれた成果

- ・各団体の専門性が合わさることで新たな学びのプログラムが生まれた。(ex. SUPx アート→ ゴミアートを通じてマイクロプラスチック問題を考える)
- ・お互いの知見を共有でき、これからの手賀沼の環境保全における様々な視点を学び合っている。(鳥の視点、魚の視点、治水の視点 etc)

● 今後力を入れていきたいこと

- ・参加団体を増やし、連携の輪を広げていくことで、持続的な受け入れ体制を構築していく。
- ・事前学習・事後学習のあり方も検討し、「学び」としての質を高めていく。2023 年度は事前事後学習ツール(教材)として“ミライノート”を運用中。学校や生徒の反応を見て教材の質も高めていきたい。

♡ コラボのコツ!!

★各団体の個性・専門性を活かす

★子どもたちの「学び」を、地域の「力」に

★地域の子どもたちと一緒に考える

学校側のニーズに合わせるのではなく、各団体が何を提供できるか、何が得意かをしっかり把握しながら、プログラムを構築することで、持続的な展開を目指している。

また、子どもたちを受け入れることのメリットを明確にすることも心がけている。農家であれば、農作業の手間が軽減されること。里山保全団体であれば、整備作業が一気に捗ること。市民団体であれば、近隣の親子に活動を認知してもらうこと。学校を受け入れることが手間や負担になるのではなく、活動を推進する「力」になることが重要だと考えている。本事業の対象を近隣の小中学校に絞っていることもポイントである。プログラムの体験者と提供者が同じ環境で暮らしていることで、身近な環境問題に目を向けることができる。各団体も、未来の担い手である地域の子どもたちに教えることで、モチベーション高く参加できている。



協働事例プロフィール

【活動開始年】 2021 年 10 月

【活動の PR 手法】 <https://www.okutega-tourism.jp/active-learning/index.html>

【この事業で活用した補助金】

地域の観光資源の磨き上げを通じた城内連携促進に向けた実証事業 (R3 観光庁)

地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業 (R4 観光庁)

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】

令和 4 年度関東農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」優良事例

柏市民新聞 (2022 年 6 月 10 日)

【問い合わせ先】 担当者 : 星野奈月 電話番号 : 070-8385-3599

メールアドレス : teganunaweekend@gmail.com